

苗床でのタマネギ細菌性病害防除について

近年、淡路地域で多発しているタマネギ細菌性病害の苗床での対策について検討した結果、剪葉時に発病株から周辺株に蔓延することが判明し、防除薬剤としては、カセット水和剤やカスミンボルドー水和剤などの効果が高いことが明らかになった。

内容

タマネギ育苗時の剪葉作業が細菌性病害を助長する可能性を明らかにするため、9月30日播種の品種‘ターザン’を用いた試験を行った。病原細菌を 10^9 個/mlに調整した懸濁液を噴霧したハサミを用い剪葉作業を行い、不織布で数日間トンネルがけを行った。また、剪葉回数による発病程度の違いを明らかにするため、剪葉3～5回の区も設定した。その結果、剪葉時にハサミに病原菌を噴霧した区では激しく発病し、剪葉作業が病害の拡大を助長していることが示唆された(図1)。また、剪葉回数を増やしても発病株率に大きな変化がなかったが、剪葉回数が増えるほど定植時の苗重が軽くなる傾向があった(図2)。

次に、育苗時における有効薬剤を明らかにするため各種殺菌剤を散布し、散布直後又は7日後に剪葉機で苗の上部を刈り取った後、病原細菌を噴霧接種し、不織布で数日間トンネルがけを行った。その結果、カセット水和剤、マイコシールド水和剤、スターナ水和剤、カスミンボルドー水和剤の効果が高か

った。また、剪葉直前に薬剤散布した方が、剪葉7日前の薬剤散布より効果が高くなる傾向にあった(図3)。

普及上の注意事項

剪葉機は、使用后必ず清掃するなど清潔に保つことが必要である。また、殺菌剤による防除は剪葉後ではなく剪葉前に行うことが望ましい。

西口 真嗣 (環境・病害虫部)
(問い合わせ先 電話：0799 - 42 - 4880)

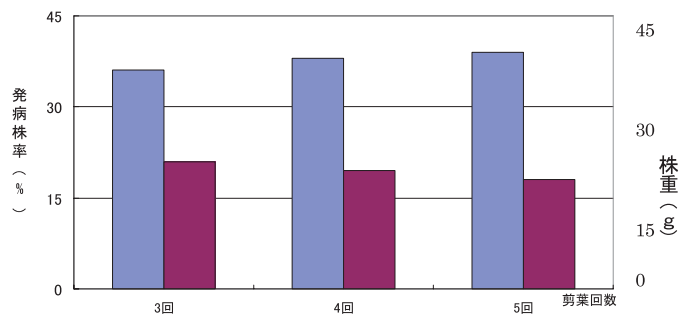


図2 剪葉回数による発病株率と株重の違い

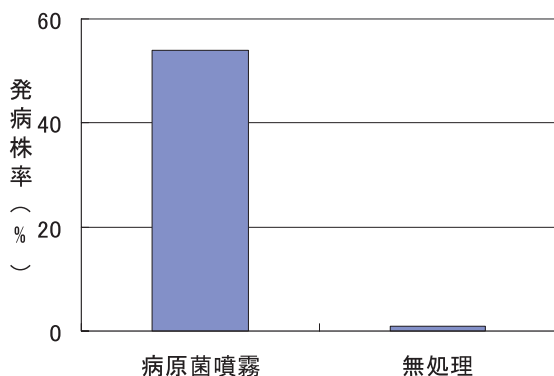


図1 剪葉作業時の病原菌噴霧による発病株率

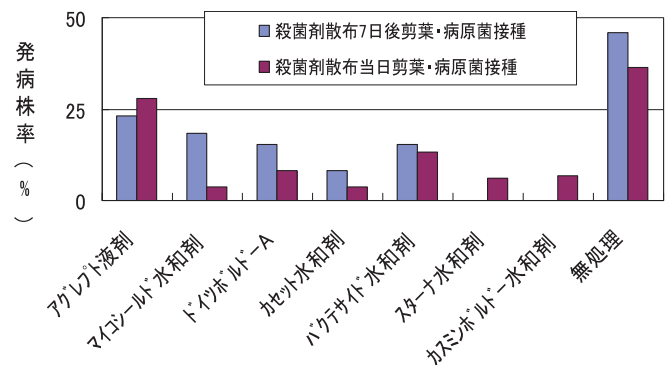


図3 各種殺菌剤の発病株率